

女の会通信

No. 13

81. 1. 30

長崎・行動を起こした女の会 事務局 七一―四三四八
通信編集局 長崎市牛園町四十七 四四―八八四二

「八一年 女の会通信」を發行するにあつて」

― 編集委員会 ―

「女の会通信」を衣替えして一年経ちました。この一年
この通信がさまざま問題をかかえに女たちの自発的主張
交流の場として、また、各々の問題意識の接点となること
を願つて發行を続けました。

当初二―三月月に一回の發行で計画していましたが、毎
月發行でき、そのことでは満足していませんが、その結果發
行におわぬ企画をつめることが出来ず、内容的には多くの
反省を残すものとなりました。

読者諸姉からは、電話でお手紙で、要望・意見をいかに
いておられます。要約すれば、次のようなことでした。

① 女の問題そのもみを取り上げたに内容が少なすぎるのでは
ないか。

② 課題が広く取り上げられてゐるが、それが何故載せられて
ゐるかハッキリしない。

① 書かれてゐる内容がかたい。

② 本の紹介・催しなどの情報を豊富に。

この二つ意見は、編集委員もその反省とも重なること
ころが多く、今後の通信に是非生かしていきたいと考へて
います。

「八一年 女の会通信」の企画について」

「女の会通信」の企画（おんなの会）例報告にあるよう
に、女の問題は種々問題と結びついて存在するので、課
題として広く取り扱うことを余儀なくされます。それにし
ても、女たちはくり返し本質的なものを問題にしてゐるし、
通信に対する指摘にもあつたように、女の問題そのものを
取り上げて、はじめに、通信の意義もあると考えました。
③ 「女の問題そのものを、もっとも身近なところで提起で
きるもの」を一年間の中心テーマに定めるため、「私に
とつての女の問題」をはじめます。
④ 女たちの活動をできるだけ広く報告します。

課題としては、教育問題・公害問題・女のからだ・講演
会等の文化活動などがあると考えています。

単女の会の催しや、女たちの関心を引く催しのお知らせを
充実させます。

希望の多かった「本の紹介」を続け、さらに、映画・コ
ンサート・文化活動についても紹介できるよう努力しま
す。

「通信代金について」

「女の会通信」は、基本的に女の会会員と通信会員に充
てられていました。通信会員は、女の会に関心ある人で女
の会に出かけられぬ地理的時間的事情のある人のための
制度として考えたものでした。だから会費として毎月三〇
〇円（会費・通信会費とも）の会費を納めてもらうこと
になっていました。しかし、女の会活動に基本的にかかわ
る会員と通信によって女の会と結ばれている通信会員で
は、得られるものが基本的に差があるのに、同じ会費で
は納得できないのでは無いかと考えました。さらに通信の
会費もこの一年、変わりの中の会の討論・活動をそのままに

伝えるものになってないし、現状からみて、「女の会通信」
は、購読料・購読者制に変えたいと考えています。

購読料は一年間一〇〇〇円（基本的に毎月未発行）にする
つもりです。通信会費の方で、女の会会員になるのか、通
信購読者になるのか決めて、通信の申し込みをしていただ
くことになると思っています。会員は毎月三〇〇円の会費の中
に通信購読料も含まれます。通信購読者にならぬ方は、
年間一〇〇〇円のみを納めていただくことになりました。

「通信の質を高めるため」

昨二―三回編集委員会では、編集委員個人の問題意識に
よって、企画・編集をしてきました。時間的なものも含め
通信の取り方など、深く検討する余裕がなく持てず、その
ため、通信は魅力に欠けるものが多かったのでは無いでし
ょうか。編集委員一同、今年は充実した通信にしたらし、
私たち自身もこの活動にたずさわって豊富なものを獲得し
ていけたらと念願しています。通信読者の意見・要望を、
どしどし寄せられますよう期待しています。編集委員会か
らも直接おかけて読者と交流し通信に生かしたいと思えます。

女の会通信

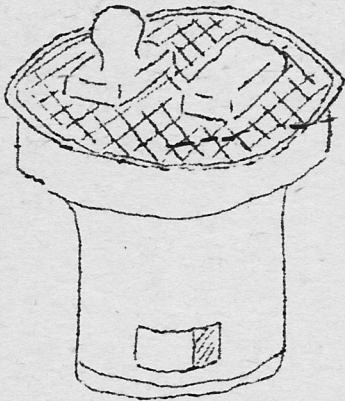
の読者になって下さい。

購読料 年間二千円 編集局宛へ納めて下さい。

後ほど振替用紙と同封します。

発行日 毎月月末

感想・意見等を編集局まで電話・手紙でお聞かせ下さい。



「水リすが」

みんなぞなれば

トップ・モード??

そして小さくなら

スカートは

どんどんよそへ

まわすこと

(待ち人あり)

大塚道子さんの女性学の講義にて

M.M

女の会が行った「主婦的状況からの自立」の討論以来、

何かと心にかけていたにだいている松岡初音さんからの聞き

伝えて、私のところにも前日に電話がはいり、講師の名も

初耳ならいつたい何が話されるのかもわからずに、それで

もまあ、行ってみるべえかてなことになる、とにかく女性

学とは何ぞやとて教名にて年あけの七日市民会館へ出かけ

て行きました。主催者は図書研究会、来ている人が四、

五十人というところだったでしょうが、男の人はごく数人

だけであとは全て老若の女の人でした。講師の大塚さんは

長崎東高校出身で東京女子大を卒業、そのあとカリフォル

ニアのサクラメントへ女性学を学ぶために一九七六年から

四年間行ってこられたとのことでした。

最初会場にはいった時、いったいどの人が講師なんだろ

うとあたりをキョロキョロしてみただけ。あまり講師がご

ざいますふうの人が見あたりす知らないだけに興味をよけ

いひかれあかんじで、そうこうするうちに誰か一人が正面

に立ち、少し離れた人が紹介をはじめました。とても柔和

そうなお白いふくくらしした顔で、眼鏡の奥の目がまた印象的

でした。年令はウーンよくわからないけど四十あたりかな、
とにかく若い感じなので定かではなく、静かな話しぶりだ
した。気持よさそうにコックリコックリする人も見かけら
れましたが、話は後半くらいからがぜん興味をひくことが
次々に出てきました。

たいしてメモをしなかったので多くを紹介できないのが
残念ですが、いったい日本とアメリカはどう違ふのかが、
かなりはっきり認識できて、とても収穫がありました。

まず第一はアメリカという国は能率主義第一の徹底した
国であるということ。今さらいうまでもないことですが、
改めて目を見る思いでした。能率的と合理的とはかなり
意味が近いような気がするのであって合理主義とは言いた
くありません。合理とは理にかなうということ、理が能
率のみをさしているとはちよつと思えないのです。でもア
メリカの理とは能率以外の何者でもないでしょう。話がそ
れでしたが、その例の一つは女の側が女としての肉体を不
利なものとして自らも認めてしまっていること。生理があ
り子を産むことは病気ではなく男と同じように働けるのだ
から勝手にハンデをつけてもらっては困る。全てのアメ

リカの女性解放運動はこの域を脱していないし、気づいて
いる人も少ないのだそうです。大林さんは男と同等に結婚
しても働き続けるために出産した日も出勤していたアメリ
カ女性の話をされ、産前産後の休暇もない状況の中で、女
の生理は病気じゃないの理屈で働いていることを医学的に
見て悪いということをもう一つ言える根拠がなくてとても
勉強したいと話されました。先進国のアメリカに産休がな
いなんてほんとに信じられますか。でも、事実なんですよ
ね。先進とはいったい何が先進するのか？ 私たちはアメリ
カをあまりお手本にはできないようですよ。何でもアメリ
カアメリカとまつりあげるけれど、しっかり中を見なければ
ぬ。私の感想が長くなりました。

肝心の女性学については、あまりちゃんと私自身理解で
きませんでした。社会科学の分野の一つに新しくできた部
門だそうです。女の会の人も一人くらいはやってる人がい
てもいいななんて思いましたが、金とヒマがたっぷりかか
りそうですね。女性の視点からの学問、学ばなくなるとそ
れを勉強せよればいゝんですけどね。誰かやってみたい
人いませんか、女の会の人。

「女のからだ」分科会に行つて

一月十三日、勤労福祉会館で行なわれました。参加者は約十名。昨年末に行なわれたアンケートについての、第一回目の集約結果の報告会がありました。配布数一〇〇。回収は三十四部。回収が少なかつたので、今後、回収が行なわれる分を加えて、また集約をするそうです。分科会のメンバー以外から、回答するのに質問が難しい所があつたか、重複した所があつたとか、色々意見が出されましたがアンケートについては、今後も続けて欲しいとの要望が出されました。三十四人のそれぞれの状況が、やはり色々出ていたので、からだに關しての女の状況を、自分も含めてある程度知ることができたのではないのでしょうか。特に出産については、現実に普通のこととして病院で行なわれていることが、はたして良いのかどうかという疑問が多く出されました。女自身が関わっていることについて、女自身もつと知る必要があるようです。今後、保健婦さんや医者による講演や学習会も考えていこうということですが。

文責 Y・K

無農薬のお茶・八潮が手にはいります！

無農薬茶（ニ〇〇♀ 九〇〇円 自然農法・佐賀県産）
一般のお茶は、農薬を多量に散布しただけでなく、味付のための各種添加物が入っているといわれています。

無農薬八潮（一K 一六〇円 有機農法 時津産）
有機農法は化学肥料を使わず、堆肥を入れて土作りをしているものです。

取扱い先 「土と文化の会」 26-2-1-1（木曜のみ）

長生協 岡田 45-5887

二月の予定です。ぜひおいでください。

● 教育部会 …… 二日(月) 六・三〇 勤労福祉会館

● 女の会例会 …… 六日(金) 六・三〇

● 女のからだ部会 …… 七日(土) 六・三〇 連絡先 24-0566

● 北部読書会 …… 九日(月) 六・三〇 連絡先 44-8842

(「女性の歴史」高群逸枝著を読んでいます)

「トンネル通信」第六回審理を聴いて

第六回公開審理は十二月二十六日午後一時より、勤労福祉会館で行なわれました。一時五十分に会場に着くと、すでに審理は始まっています。傍聴席は、満席という程ではないが、まあまあ入りです。今回は前回の続きとい

ことで、教育

(注)「トンネル通信」問題とは、長崎

市立日見小学校丸山教諭が七八年六月の

「むつ佐世保寄港」をめぐる県議会の傍

聴記を、学級通信「トンネル」に載せた

ことをきっかけに、県議会文教委員会に

喚問され、同年十一月、県教育委員会よ

り戒告処分を受けた。これを不当と考え

る父母を中心に、県人事委員会へ提訴、

丸山処分の撤回を申し立てた。公開審理

は七九年十月十八日に始まり、今回で六

回目である。

のではないはずだ」、公教育の運営は、教育基本法をは

じめとする法律に基づくべきだ。そうである以上、処分は

誰がみてもおかしくない根拠によらねばならない。つまり、

公教育を支える法律のどこに違反するのかを、明らかにし

てほしい」、教育の中立性とは何か、公正な教育とは

何か、

次々と出される疑問に、教育委員会は、最後までハッキ

リとした答えが出せないうままでした。傍聴している私には、

かゆいところに手が届かない。もどかしさばかり感じられ

ました。

はたして処分根拠は何なのか？ 公的・法律的根拠がな

い処分が有効なはずがありません。にもかかわらず、教育

委員会は、何故処分したのか。次回の審理も、この続きで

す。

進展の少ない審理ですが、子供を学校に通わせているだ

けで、学校のことを知らない私にも、学校教育の現状が、

少しづつわかってくるようです。

手にてまらむ

K・O

女たちの参考書体 本屋さんの店先より

女の論理序説―族母的解放の根源 (河野信子著) 社会評論社 論社刊 1930年 11月 100頁 1.500円

女性と天皇制 (加納実紀代編) 思想の科学社 1930年 11月 100頁 1.500円

入門女性解放論 (一巻) 藤枝子編 亜紀書房 1930年 11月 100頁 1.500円

性の神話―女性解放の諸問題 (エスリン・リード 訳) 亜紀書房 1930年 11月 100頁 1.500円

女の自立―労働からの省察 (河野信子著) 新評論 1930年 11月 100頁 1.500円

専門家の女たち―現状とその意匠 (河田政子他) 亜紀書房 1930年 11月 100頁 1.500円

おわしいおんな (もうすぐおわしい) 未来社 1930年 11月 100頁 1.500円

現代婦人運動史年表 (三井禮子編) 三一書房 1930年 11月 100頁 1.500円

女性思想史―愛と革命を生きた女たち (亜紀書房 神止 市子) 1930年 11月 100頁 1.500円

覚めよ女たち―赤潮会の人びと (江刺昭子) 大月書局 1930年 11月 100頁 1.500円

元始・女性は大陽であった (上・下) (平塚らいてつ) 大月書局 1930年 11月 100頁 1.500円

火の国の女高群逸枝 (河野信子) 新評論 1930年 11月 100頁 1.500円

むしろ女人の性を礼拝せよ (平塚らいてつ) 人文書院 1930年 11月 100頁 1.500円

おんな二代の記 (山川菊栄) 平凡社 1930年 11月 100頁 1.500円

わたしの中の女の尸史 (村上リウ) 人文書院 1930年 11月 100頁 1.500円

冬の雑草 (郡山吉江) 現代書館 1930年 11月 100頁 1.500円

わが家と性の歴史書 (丸山友枝子) 社会評論社 1930年 11月 100頁 1.500円

荒野に叫ぶ声―女收容所列島 (栗石とみ) 社会評論社 1930年 11月 100頁 1.500円

女の地平から見えてくるもの―女性解放の自分史 (田中重信) 亜紀書房 1930年 11月 100頁 1.500円

ボーイウォール―自身を語る (映画下キスト完訳版) 人文書院 1930年 11月 100頁 1.500円

女性と知的創造 (ボーヴォワール) 渚白講義集 人文書院 1930年 11月 100頁 1.500円

危険の女 (シモーヌド・ボワワール) 人文書院 1930年 11月 100頁 1.500円

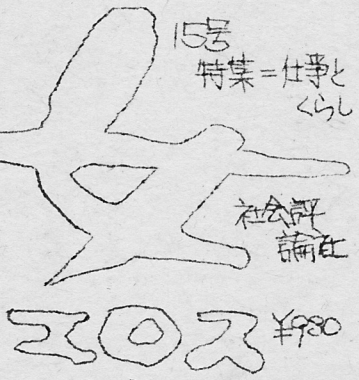
いま家庭で―アメリカ女性の自立とその子供たちの立場 (マリト・シヨバン) 多賀出版 1930年 11月 100頁 1.500円

性の深層・小さな相違と大きな結果 (アリス・シバルツァー) 亜紀書房 1930年 11月 100頁 1.500円

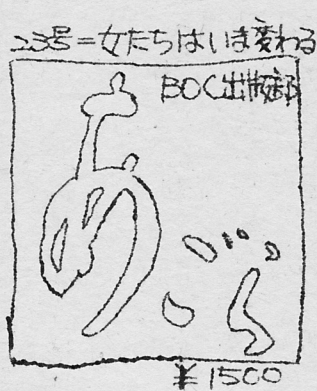
女と男 (ニギシヨヴァニ) 工友舎 1930年 11月 100頁 1.500円

女の中から、性と愛の真実 (ホズトン) 女の健康の本 (集団) 1930年 11月 100頁 1.500円

ウーマンズ・ボデー (タイムズ・マガジン) 1930年 11月 100頁 1.500円



2025 1980



1500

婦人民主新聞 婦人区々々々々 責任編集

週刊 一月五〇〇円

以上の上の書籍は、女外会通信欄掲載まで取りま

禁煙室

去身と今身は、私の天中殺です。この時期は、流れに逆らわないでやっていった方が良いということ、そのせいではないですが、根がマイペース派なので、去身と同様、思切れないように我慢強ろうと思えます。身始單々、病気を倒れてしまったのですが、今身は遠方の旅者の方々を、訪問する予定ですので、楽しみに健康維持にはげみたいと思っております。

病気のときは、近所の友人に御飯を運んでもらうし即かりました。病気でも、一人暮らしの方が気が楽だなあと思いがち、四目固むゆっくり仕事を休みました。

(Y・K)

現在一戸建の家で、少しの(?)給料をもらいながらの一人住い。とうにもハタ自には優雅な生活にみえるらしく、生毛の虫喰を知りたがる報・眼……。ぼろといてくれぬという態度をどうものなら、我家の圃りは二み集収場よろしく、毒には魚の内臓が、と二ろ狭しと泳いでいる。たまの休日は掃除しようばか

りの御忠告。一人住まい(女の一人住まいをことさら強調)は寂しけうろと結婚話。二ろらは一人でも生きる自信がついたところでの結婚話。や、と人並に悩んでる今自この頃。

(Y・Y)

だんだん人が無くなってきたなあ、幼稚園の迎えだけでいいから、と隣の奥さんに頼まれた。ハイハイと気軽に引受けたら、ナン上奥さんはなかなか帰ってこない。午前中で帰る日には御飯もおやつもやらねばならぬ。一ヶ月の約束が三ヶ月も。胡じこもりがちの我が子が遠べるようになるなら、とがマンもしたが、他の子の声は聞こえると、サッサと出て自分の家へ帰り鍵をしめてしまう。あ、あ。それならもう、家へ送り届けたら、私の家の中には一歩も入れないぞ。

(H、H)